

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

現実は今現われている面にとらわれることが多く、他の面を見失って、争ったり、喜びすぎたり、嘆き悲しんで自殺をしたり、迷うことが多いのではなからうか。

実は、こうした多面性は、人生そのものについても言えることであり、大にしては宇宙大自然そのものについても同様なのである。もちろん、長きにわたって変わらないうものもあるが、変わるものもある。「無から有は生じない」というようなことは変わらないであろう。真理はどこまでいっても不変である。しかし、この世に現われた面（現象面）は、すべて長い間には変わっている。恐竜どもが覇をきそっていた地球に、今や人間どもが勢力を誇っているが、さてこの先はどうなることか。

今までに無かった原子力発電所などが出現したかと思うと、またその事故も新しく大規模となる。放射能の恐怖がある一面には、その発電所から電力という利益を享有できる他の面もある。面の基準のとらえ方によって、いろいろの見方はできるが、「一面だけにこだわるな」という真理は変わらない。雨もふれば、陽もさす。熱帯、寒帯の地にも細かい変化がある。大宇宙大自然の多面性は、限りなき変化の妙味を満喫させる。



変化は無限

丸山竹秋

人生もその通りである。若い時の考えは老いてから変わることもある。思想や行動や、そして暮らしむきや、健康不健康などについても、成功や失敗や、いろいろな面をもちながら、人生は変化する。もちろん思想や行動の一貫性もある。終始変わらない至誠の人もある。一貫性の面はそうであっても、それを中心にしての他の面は、いろいろと細かに変化している。

人生は思うようになる面もあるが、思うようにならない面もある。思うようになつたときは、愉快であるが、しかしそれは一面で、他の面を無視するのは誤りだ。ある人は言った。「なかなか思うようにならないことが面白い」と。

思う通りにならないと、不愉快であり、ゆううつにもなり、また悲しんだり、怒ったりするのであるが、人生の多面性をみる時、その思うようにならない面があることも、また面白いのではないか。

広く人生全般にわたって成功ばかりしていたのでは面白くはない。失敗するかもしれないと用心し、またついに失敗したという時点で、「しまった」「これではいけない」などと反省し、緊張を新たにすることを繰り返す。ドラマを見て、すべてが面白い。人生はまさにそのドラマだ。多面的なのだ。だから人生は高く大きく、味わい深く面白のである。

『あなたは生命の元を見つけたか』より